

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時の職員間でBS法を用いて、理念を作成し、日々の中で理念を忘れないように、フロア内に理念を掲示し、実践につなげている。	開設時に事業所独自の理念を職員全員で話し合いながら決めました。理念の実践ができるよう、共有スペースに理念を掲示し、何か問題があれば理念を確認するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜をもらったり、野菜作り等のアドバイスをいただいている。また近くの山に山菜取りに出掛けたり、散歩等で近所の方とお話している。また地域回覧板を入居者様をお願いしている。	地域のさいの神や夏祭りにご利用者と一緒に参加したり、地域の介護施設との合同の運動会の開催や、守門中学校の総合学習の受け入れを行う等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、区長から参加をもらい、活動報告をし助言や意見等を頂き、サービス向上に反映させている。	運営推進会議は区長や市担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。しかし、開設時からこれまでに1度しか開催ができませんでした。	運営推進会議はご家族の参加の検討や2ヶ月に1回の開催ができるように計画的に日程調整を行うなどの対応を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	夫婦部屋について相談をし助言を頂いたり、運営推進会議や区分別会議等で、相談をし助言等いただくなど、協力関係を築いている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、市主催の地域密着型部会にも参加するなどし、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は、夜間帯防犯の為玄関を施錠させてもらっている。日々のケアの中では、虐待をしないように検討し、抗精神薬についても主治医と相談しながら、過剰服用にならないようにしている。	事業所として身体拘束は行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしています。	身体拘束の理解を深める為にも、定期的に研修を行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、虐待が行われないように職員同士が注意を払っているが、学ぶ機会については特に設けられていない。	日々のケアの中で、虐待が行われないように職員同士が注意を払っていますが、身体拘束同様に研修の機会はありませんでした。	虐待防止の理解を深める為にも、定期的に研修を行われることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中で成年補助人のいる方がいるため、制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、管理者が利用者や家族に説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどのご家族が少なくとも月1回程度面会に来られるので、その際に意見や要望等を頂き日々のケアに反映させている。	面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。しかし、現段階ではご家族が事業所に集まる機会が設けられておりませんでした。	定期的にご家族が事業所に集める機会を検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングで、職員からの意見や提案を聞いている。	日常の業務の中で職員からの提案があれば、日々のミーティングにて検討が行われ、改善されています。	職員会議も定期的に行うことができるように、職員と検討の機会を設けられることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に入ったり、管理者の話等で職員の考えや意見をきき、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修に参加させてもらい、日々のケアの中に学んだことを生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区ケア会議に参加することで、他事業所の活動報告を聞いたり、助言等をもらうなど、関係を築きながら、サービスの質向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約際に、直接ご利用者お話しすることで、不安や心配事を傾聴し、安心してサービスを開始できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	項目15と同じように、ご家族の方の思いを把握し、安心してサービス開始できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約際に直接お話をすることで、ご利用者・ご家族のニーズを把握し、適当なサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に家事仕事や畑仕事等手伝ってくれる際は、「ありがとうございます」という感謝の気持ちをきちんと伝える事で、介護される一方の立場にならないようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に事業所での様子を伝え、ご家族からそれまでのその方の暮らし方や性格等を聞くなど、ご家族との関係を大切にしている。	事業所のホームページにて日々の活動の様子をご家族に伝えているほか、面会時には写真を見てもらい内容を報告する等、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	サービス担当者会議へのご家族の参加がありませんでしたので、今後参加されるよう検討されることを期待します。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の地域の催しに参加したり、自宅の様子を見に行った際は近所の方に会ってくるなど、それ以前の関係継続に出来るだけ努めている。	毎日ご利用者と一緒にスーパーへ買い物に出かけたり、地域の老人会への参加もあります。また、知人の面会や親戚のお宅に訪問するなどし、関係が継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋の閉じこもりを防ぐために、家事仕事や畑仕事、外出などを行い、利用者同士が関われるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階で契約終了した方はいらっしゃらないが、その際にはできるだけご利用者やご家族をフォローしていこうと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様からの普段の会話の中からもだけでなく、ご家族様からも直接お話ししたり、アンケート記入から情報を得て、把握に努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われているほか、ご家族へのアンケートを実施し生活歴や趣味についての確認も行いました。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様からの直接お話しを聞くだけでなく、ご家族が面会に来られた際に、これまでの様子を教えていただき、把握に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の無理のない程度に、その方の出来る家事仕事や畑仕事等手伝っていただき、残脳機能の維持を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とは普段のかかわりの中から、ご家族様とは面会に来られた際に意見等をきき、反映させている。職員とは普段のミーティングで話し合い、より良いケアができるように意見を出し合っている。ただ3者が話し合う場は設けられていない。	毎月のモニタリング及び6ヶ月に1度のサービス担当者会議にて、意向を反映した介護計画が作成されています。	モニタリングに関する書類が確認できませんでしたので、モニタリングについても記録に残されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその方の様子や気づきなどを記録し、普段のミーティングの中でも、情報を共有し、見直しを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけご本人様・ご家族様の希望に柔軟に対応させてもらっている。過去にご本人様希望にて、地域の敬老会や地域の集まりに参加したり、ご兄弟のところに会いにいっく、墓参りに行くなどのお手伝いをさせてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板を入居者様に回覧してもらったり、地域の祭りに参加する等、地域とのつながりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望がある場合は、希望のかかりつけ医と連携を図っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は職員が同行し、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別記録に記入し、ミーティングで伝達を行い、医療的な面からのサポートを併設施設看護師から受けており、適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現段階で入院した入居者様はいない。定期受診の際に、各主治医にグループホームでの様子を細かく伝達し、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化・終末期の在り方について説明をしている。地域の関係者との連携はとれていない。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えていきます。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援していきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の事業所独自のマニュアルを見直しをおこなっている。ただ定期的な訓練は行われていない。	急変時の事業所でのマニュアルは作成されていますが、救命に関する研修はまだおこなわれていません。	職員が適切な初期対応がとれるように、定期的に研修を行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練など行われていない。	開設時より災害を想定した避難訓練はまだ行われておらず、非常用の食品の確保もされていませんでした。	災害時に適切な対応がとれるように、定期的な避難訓練の実施及び非常用の食品の確保をされることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちを持って関わられるよう、丁寧な言葉づかい、名前を呼ぶ際には基本苗字で呼びしている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるよう徹底されています。また、広報やホームページの写真の掲載についてもすべてのご利用者に契約時に確認されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のかかわりのなかで、言葉だけでなく、表情や行動からもその方の思いを把握し、自己決定を促す支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、日中の活動や入浴の順番等を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、ご本人様に着たい服等を選んでもらっている。また必要な時・ご家族に依頼されたときは、服を買いに出掛け好みのものをご本人様に選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや準備・後片付け等その方の出来る事を、手伝っていただいている。また外食に出掛け、普段と異なる食事の楽しさも図れるよう支援している。	ご利用者の状態に応じて調理や味付け、後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもとうもろこしや枝豆などの野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。外食に出かけたり、山菜を取ったり、うどんを作ったりなどご利用者と一緒に食事を楽しめるように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や飲む量が少ない方には、他のものを用意し摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔の手入を促しているが、洗浄が不十分な際は声掛けや仕上げを行い口腔内が清潔に保てるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が排泄は、自立もしくは見守りだが、必要な方にはトイレの声掛けを行い、トイレで排泄できるよう支援している。	介護記録にて排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操等日中はできるだけ活動的に適度な運動ができるように働きかけている。必要時には、併設施設看護師や主治医に助言・相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の有無・順番等は入居者様に決めてもらい、入浴してもらっている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。ご利用者と一緒に日帰り温泉に行き、入浴を楽しむこともありました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団が好みの方には布団、ベッドが良い方にはベットを使用してもらっている。また基本はご自分部屋で休んでもらっているが、フロアで休みたい場合はその都度対応させてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は介護職員がおこなっており、ひとりひとりが入居者様の服薬状況を把握している。必要時には、併設施設看護師や主治医と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の関わりの中やご家族からのお話から得た情報をもとに、張り合いのある生活が過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望で散歩や外出・外食に出掛けたり、ご家族の方と協力しながら地域の集まりに出かけている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたりそばを食べに出かけたり、季節に合わせたお花見や山菜採りなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布が普段はお預かりしているが、外出する際にはご本院様にお渡しし、ご自分で支払いなどをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は基本自由に使ってもらい、友人や家族とのやりとりができるように支援している。また手紙のやり取りができるようにポストに投函したり、切手等を買いに掛け、いつでも手紙が書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	難聴なご利用者もテレビの音が聞こえるように、スピーカを用意し、聞こえる環境を作っている。トイレやお風呂の場所がわかるように、言葉をつけている。また季節感・生活感を出すために、プランターに花を植えたり、花を部屋に置いたり、布団や洗濯物をベランダに干している。	共有スペースにはご利用者が作ったわらじが飾られていたり、日々の活動の様子をまとめた掲示物も月に1度は張り替えるなどして季節感を感じられるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋で過ごしたいときには、自由にお部屋に行ってもらってるが、閉じこもりを防ぐためにフロアへお誘いの声掛けを行い、他者と関わることのできる時間を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が出来るだけそれまで使っていた家具等を持ってきてもらい、生活感のある居心地の良い空間になるようにしている。	居室には、ベッドや仏壇など、自宅から持ち込んでもらっています。また、やご家族の写真やカレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターや手すりを付け、安心・安全に生活が送れるように工夫している。		